

研究の概要

1 研究主題

自ら気づき、考え、行動する主体的な児童の育成

～ふり返りを生かした教育活動の工夫・改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日的課題から

近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や不安定な国際情勢、大規模災害など、予測困難な事態が多く起きている。また、テクノロジーの進歩や人工知能の発達によって、これまで人間がやっていた仕事を、数年後にはコンピューターが担うようになっていくなると言われている。「VUCAの時代」とも言われる、変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)の強いこれからの時代の中で、子ども達が力強く生き抜いていくために必要な資質・能力が、「自ら気づき、考え、行動する」主体性であると考えられる。

主体性をもった子ども達ならば、未知のことや予想だにできなかったこと、困難なことに会ったとしても、自らの手で未来を切り拓き、困難に立ち向かい、豊かで幸せに生きていくことができるだろう。

(2) 本校児童の実態及び昨年度の研究

本校児童の課題として、自信がなく、自己肯定感が低い傾向にある様子が見受けられる。具体的には、授業中に発表をしようとする児童が偏りがちであること、司会など前に出て話す際に教師に台本を書いてもらわないと言えないこと、指示されたことはできるが自分で考えて取り組むことが苦手であることなどがある。「～していいですか。」「どうしたらいいですか。」など、何でも教師に確認を取る受け身な姿も見られる。

そこで、本校は昨年度より「主体的な児童の育成」を校内研究のキーワードとして、学力向上部、生徒指導部(心育て)、特別活動部(ときめき)、保健・体育部(体づくり)の4部会の取り組みの工夫・改善を行った。日頃の行事や教育活動について、「P:主体性を育むための工夫・改善ができないか」という視点で取り組みの計画を立てる」「D:児童の思いを実現させるための適切な支援を行う」

「C:活動の評価とふり返りを行う」「A:今後の教育活動に生かす」といったPDCAサイクルを積み重ね、児童が主体的に考え、判断し、行動することができるように研究を進めてきた。このような昨年度の研究から、子ども達が日々の活動や様々な行事を通して、課題に向かってどのように解決しようか考え、自らの意思で判断し、行動に移す生き生きとした姿が見られるようになってきた。

昨年度の研究の成果を、以下のような子どもの姿から見ることができる。

- やってみよう、頑張ろうと前向きに活動する姿
- 活躍の場が増えたことによって達成感・満足感を得たり、自信をつけたりした姿
- 効率よく準備を進めたり、建設的に話し合ったりと主体的に活動するためのスキルを身に付けた姿

その一方で、ただ児童を前に出せば主体的と言えるのか、どこまでを求めるのかといった主体性の定義や成果指標の曖昧さ、子どもの動かし方や子どもに任せるための教師の下準備、活動時間の確保といった教師の多忙感の強さや主体性を高めるスキルが十分でないことなどが課題であった。

これらのことから、今年度は昨年度の実践によって見えてきた「主体的な児童の姿」をより明確化し、それを具現化するための教師の指導の在り方を探り、主体性を育むためのスキルを向上させていく。

加えて、研究2年目となる今年度は、生活の中での自らの「気づき」を起点として、解決について考え、試行錯誤しながら行動することができる主体的な児童の育成をめざしたいと考え、本研究主題「自ら気づき、考え、行動する主体的な児童の育成」を設定した。

3 研究主題について

(1)「主体的な児童」とは

本校では、「主体的な児童」とは、課題に気付き、必要なことを自分で考えて判断し、行動する児童であると捉えている。そして、「主体的な児童」の姿とは次のような姿であると考ええる。

- 「こんなことができるようになりたい」「わかるようになりたい」「こんな自分になりたい」「こんな学校にしたい」などという思いや願いをもち、自分や学級・学年、学校の学習や生活をよりよくするために必要なことに気付き、課題を見出す姿
- これまでの経験を生かし、課題を解決するための方法を自分なりに考えようとする姿
- 試行錯誤しながら、課題の解決に向けて実践し続ける姿
- 実践をふり返り、自分のよさや可能性に気付き、新たな課題を見出す姿

このように、自ら課題を見出し、解決方法を考え、試行錯誤しながら実践し、ふり返りを次につなげることを繰り返していくことで児童の主体性が育まれていくと考える。

そのためには、教師が指示を与え、すべきことを示すばかりでなく、「どうしたいか」「何ができそうか」と子ども達に問いかけ、実践できる環境をつくらなければならない。また、実際の取り組みを通して、うまくいったことをフィードバックし、うまくいかなかったことも前向きに改善につなげていけるような教師の関わり方が必要であると考ええる。このような教師の関わりによって、児童は新たな課題を見出し、学習や生活の中の様々な課題にも気付くことができるようになるだろう。

(2)気付くとは

教師は、学校教育目標『「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成』という大きな目標に向かって教育活動を行う。児童は「いい顔 いい声 いい動き」の学校づくりを目指して学校生活を送る。この目標に向かって、何が足りないか、もっとよくするためにはという視点で生活を見つめ、課題を見出すことを本研究での「気付く」とことと捉える。これには、自己についての気付きと他者についての気付きがあると考ええる。また、内容としては、目標に対しての自己や他者のよさや問題点、成長したことや伸ばしたいこと、今後必要なことなどがあると考ええる。

(3)ふり返りを生かすとは

これには、児童のふり返りを生かすことと教師のふり返りを生かすことの2つがある。

前者については、まず今年度の研究の重点は、児童が自らの気付きを起点として考え、判断し、行動できるようにすることである。児童の気付く力を伸ばすために必要なのがふり返りであると考ええる。様々な活動に取り組んだ際、取り組んだら終わりではなく、取り組みを通して伸びた力やよりよくできそうなこと、今後に生かせそうなことを考えさせる。個人で自己の成長や課題をふり返ったり、グループで活動の内容や取り組み方をふり返ったり、学年や学級で集団としての成長や課題をふり返ったりということが考えられる。

後者については、教師個人や各部会、学級や学年での取り組みに対して、児童の主体性を育むためにとった手立てが効果的であったか、どのようなよさがあったか、よりよくできないかといった視点で教育活動をふり返る。

以上のような振り返りを、活動の計画を変更・修正に生かしたり、次の活動に生かしたり、新しいアイデアを生み出したりすることが「ふり返りを生かす」ことであると考ええる。

4 研究目標

各部会や各学級・学年の取り組みにおいて、児童と教師のふり返りを生かしながら自ら気付き、考え、行動する主体的な児童を育成する指導のあり方を探る。

5 研究仮説

教育活動全体を通じた4つの部会や各学年の取り組みにおいて、児童や教師のふり返りを次の活動に生かすことで、自ら気付き、考え、行動する主体的な児童を育成することができるであろう。

6 研究の内容と方法

(1) めざす児童の姿・主体性の段階の設定

全体

「主体的な児童の姿」とはどのような姿か、全職員でイメージを共有して教育活動にあたる。また、発達段階に即した目指す姿を設定し、その達成に向けて取り組んでいく。さらに講師招聘による講話や指導助言で研修を深めていく。

「気付く・考える・行動する・ふり返る」の4つをさらに細分化して主体性の段階を設定し、年間3回の児童アンケートを実施する。年度はじめに実態把握をし、前期終了の10月と年度末の2月に変化を比較する。児童によりスタートラインが異なるため、全体や学年単位の変化だけでなく個人の変化を見取ることができるようにする。

(2) 各部会における取り組み

各部会

主体的な児童を育てるという視点を持ち、各部会の教育活動にあたる。部会のねらいを達成するために委員会活動も活用する。重点内容についてはPDCAシートを活用し記録に残す。

ア 学力向上部（学力向上チーム）による学習基盤の確立と学力向上のための指導法改善

重点内容

(ア) 読書活動の推進（図書委員会）

イ 生徒指導部（心育てチーム）による生活指導と心の教育

重点内容

(ア)

ウ 特別活動部（ときめきチーム）による集団づくりや課題解決の能力の育成

重点内容

(ア)

エ 保健・体育部（体づくりチーム）による健康・安全な生活づくり

重点内容

(ア)

PDCAサイクルを繰り返していくことで見通しをもち、実践し、新たな課題に気付く力が育まれていくと考える。PDCAサイクルを意識して取り組みが行えるよう、右のようなPDCAシートを活用する。

昨年度は各チームで年間を通して記録したが、他チームのシートをなかなか見る機会がない、その時だけのふり返りになっているといった課題があった。そのため、今年度は各部会・各学年で主体性を育むための取り組みの重点内容を決め、その取り組みについてPDCAシートで記録を残す。取り組み後には報告会を行ったり、PDCAシートを掲示したりして、各部会や各学年の取り組みが職員で共有できるようにする。

PDCAシート	
部会・学年	活動
〇年	〇〇〇〇〇〇〇〇
P(計画)	
「主体性を育む」という視点で・・・ ・取り組みにあたって教師がどのような準備をするか ・児童に何をさせるか、実行委員などの組織 ・いつまでに、誰が、何をする など	
D(活動の様子)	
・実際の活動の中で主体的に 気付く・考える・行動している様子 ・児童の様子や掲示物、作成物などの 写真や資料とともに	
C(ふり返り)	
・児童の主体的な姿が見られた場面 ・よかった姿や児童による実際のふり返りの記述など ・計画を修正したことなど	
A(今後に向けて)	
・効果的だった取り組みや支援 ・もっとこうするといいなと思ったことなど ・今後の活動に生かせること	

○P l a n（目標設定・計画・準備）

各部会および各学年で、主体性を育むための工夫・改善ができないかという視点で取り組みの計画を立てる。取り組みにあたって教師の役割と子どもの役割を明確にし、いつまでに誰が何をするのか、教師がどのような準備をしておくかといったことを検討する。

○D o（実践・活動）

児童にどのような取り組みを行っていきたいか意思決定をさせ、実践させる。教師は児童の思いを実現させるための適切な支援を行う。児童はこれまで主体的に行動してきた経験が少ないため、必要に応じて教師が様々な選択肢を示して考え方を広げていく。その際、児童に失敗をさせないように何でも教師が先回りして準備しておくのではなく、時には失敗も経験させ、たくましくしなやかに成長させていきたい。「このやり方ではうまくいかない」と知ることも大切な気付きである。活動をしながら、随時計画の修正を行う。

○C h e c k（評価・反省・ふり回り）

活動の評価とふり回りを行う。今年度、児童が自ら課題に気付く力を育むために、特に大切にしたい部分である。このシートでは教師のふり回りを記録する。児童の主体性を育むためにとった手立てが効果的であったか、どのようなよさがあったか、よりよくできないかといった視点で教育活動をふり返る。

○A c t i o n（改善・次回につなぐ）

ふり回りを今後の教育活動に生かす。取り組みを通した児童の変容や、今後も続けていった方がよいこと、他の場面でも活用できそうなことや改善が必要なことを整理し、以降の取り組みにつなげていく。

（3）各学年・学級における取り組み 各学年

児童が学校生活で一番多くの時間を過ごすのは学級や学年である。各学年や学級の日々の取り組みでも主体性を育むことを意識して指導にあたる。その中でも各学年で特に力を入れて取り組む活動についてP D C Aシートを活用し、記録に残す。

（4）教師のスキルアップのための取り組み 全体

主体性を育むためにどのような取り組みをしていけばよいか、児童を動かす活動の仕組み方や声のかけ方などの研修を深め、教師の指導力を高めていく。

①講師招聘による指導助言、講話

主体性の定義、主体性を育むための指導や支援の在り方など、より専門的な

②実践交流（学級での実践や掲示物の工夫など）

低学年・中学年・高学年・職員室に分かれている本校では、他学年の取り組みの様子が見えづらい。そのため、学年グループをこえて職員同士が取り組みを交流する機会を設ける。経験年数や学年グループのバランスとり、3～4人ほどの少人数で日々の悩みや困っていること、「この先生のこの指導について聞きたい」ということなどについて自由に話す、掃除指導や給食指導などテーマを決めて話す、実際に教室環境を見ながら工夫を見つけたり意図を聞いたりするなどといった形で実践交流を行う。

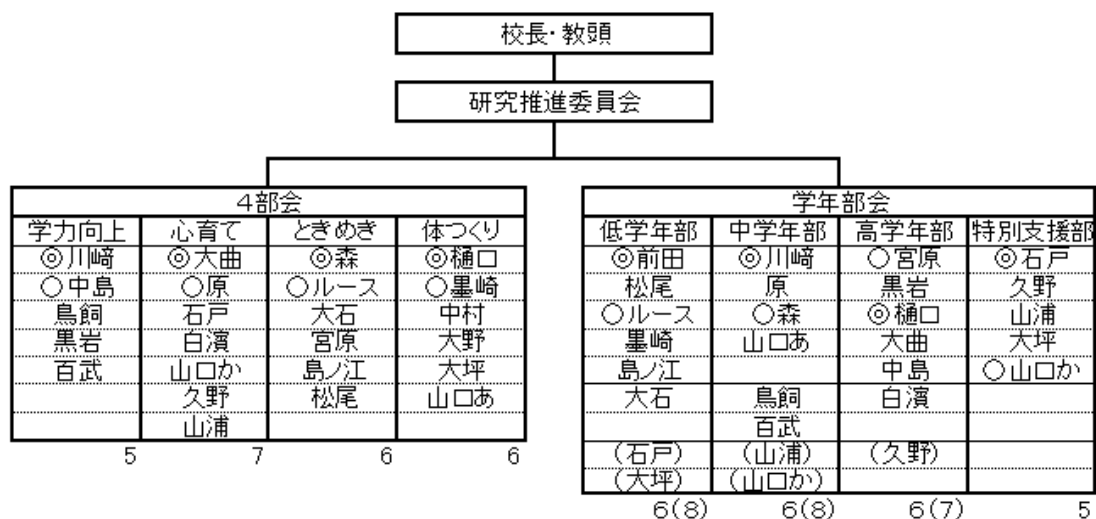
③メンタリング

様々な経験や知識をもった人材が豊富であることが本校の強みである。個人の得意なことを生かしたり、それぞれの課題についてスキルアップしたりするためにメンタリングを行う。

まず、個人の強みや課題だと感じていることをもとにペアを組む。ペアごとに授業についての事前打ち合わせ、授業参観、事後のふり返しを行う。その際、メンターとメンティのどちらが授業をしてもよい。ペアを変え、全職員各学期に一回ずつは取り組む。

7 研究の組織

(1) 組織図



(2) 組織の内容

- ①研究推進委員会・・・校内研究の骨子を作成し、研究の深化と効率化を図る。
研究の内容や方法、課題について協議し、解決を図る。
- ②4部会・・・・・・・・・・校内研究との関連を図りながら、主体的な児童の育成に向けての取り組みを提案する。また、取り組みについてふり返し、改善点を協議する。
- ③学年部会・・・・・・・・・・学級担任、級外が低・中・高学年部、特別支援部に所属し、それぞれの児童の発達段階や特性に応じた実践研究を進めていく。

令和6年度校内研究年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研													
行事	入学式	新入学 行事	5年生学年 ウォークラリー						新入学 行事	マラソン大会	6年生を送る会	卒業式	
学力向上	生活チェック 学力状況調査	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	新入学 学力向上	
心育で	あいさつレベル向上	おそらにミッセン	校内での過ごし方 はきものを揃える	児童連立 中校運動会	市人権啓発 人権作文募集	はきものを揃える	あいさつ	時間を守る	人権啓発 おそらにミッセン	時間を守る	あいさつ	おそらにミッセン	
ときめき	1年生を送る会 新入学・準備	たてわり運動 クラブ活動	児童連立1 ウォークラリー計画 ・準備			児童連立2		児童連立	児童連立 代校運動会	児童連立 代校運動会	児童連立 代校運動会	児童連立 代校運動会	児童連立 代校運動会
体づくり	体力テスト	ボール運動	体力テスト ボール運動	ボール学習	運動会授業	運動会 実行委員	運動会	スポーツマラソン	スポーツマラソン クラブ活動	スポーツマラソン クラブ活動	スポーツマラソン クラブ活動	スポーツマラソン クラブ活動	児童連立 代校運動会
1年			新入学 行事			新入学 行事	新入学 行事	新入学 行事	新入学 行事	新入学 行事	新入学 行事	新入学 行事	児童連立 代校運動会
2年	年間計画(実行委 員分任)	年間計画(実行委 員分任)	年間計画(実行委 員分任)	お楽しみ会企画		お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	お楽しみ会企画	児童連立 代校運動会
3年		製作 制作(社会) 制作(社会)	製作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	制作 制作(社会) 制作(社会)	児童連立 代校運動会
4年													児童連立 代校運動会
5年	実行委員年間計画 (希望調査・分任)	新入学 行事	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	児童連立 代校運動会
6年	実行委員年間計画 (希望調査・分任)	新入学 行事	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	ウォークラリー ウォークラリー	児童連立 代校運動会
なかよし	5月用通示作成 (いのり)	市立図書館 夏休み おそらにミッセン	7月用通示作成 (七夕)	夏休み おそらにミッセン	なかよし おそらにミッセン	10月用通示作成 (ハロウィン)	ハロウィン おそらにミッセン	12月用通示作成 (クリスマス)	クリスマス おそらにミッセン	クリスマス おそらにミッセン	クリスマス おそらにミッセン	クリスマス おそらにミッセン	児童連立 代校運動会

明倫小学校 学校教育目標

いい顔 いい声 いい動き

笑顔で

進んで自信をもって、
取り組む

前向きに

友達と認め合い
高め合う

考え、動く

目標に向かってよりよい
行動を考え 実践する

【研究主題】

自ら気づき、考え、行動する主体的な児童の育成
～ふり返りを生かした教育活動の工夫・改善を通して～

各学年の
取り組み

C

評価・反省
・ふり返り

D

実践・活動

A

改善

次回につなぐ

P

目標設定・
計画・準備

6年

5年

4年

3年

2年

1年

学力向上

ICT 利活用
学習規律
学力向上
見通しを持つ
対話力
思考力

心育て

生徒指導
生活の約束
心の教育
安全教育
清掃指導

ときめき

学級活動
キャリア教育
学校行事
児童会活動
たてわり活動
クラブ活動

体づくり

体育的行事
体力向上
保健指導
食育指導
給食指導

主体的な子どもを育成するための指導力向上